〔新刊紹介〕

丸山顕徳編著『大和の歴史と伝説を訪ねて』

林　ひかり

大和は豊かな自然や穏やかな気象に恵まれた地域であり、古くから歴史と文化が育まれた地域でもある。この地域には古くから続く寺社仏閣や集落、江戸時代の家屋などが今でも数多く残り、訪れた私達を楽しませてくれる。

本書は、こうした大和地方で育まれた歴史と伝説を探訪し紹介するもので、二〇一〇年に刊行された『奈良伝説探訪』の続編である。前作は北和地域が中心であったが、本書では中和・南和地域を中心とした三十六編が収められている。本書でも前作と同様、各地に古くから残る伝説――本書における伝説とは自然・歴史・信仰・神話・技術・文化・芸能といったものから世間話・都市伝承まで、幅広い伝承文化全般を指す――を探訪する。そして、その探訪した伝説の内容や起こり、現在に至るまでの歴史、行事などを、様々な資料や写真などと共に、各分野の執筆者がそれぞれの専門的な立場から分析・紹介している。また、各編の最後には「伝説地情報」として伝説に纏わる地へのアクセスや行事、見どころ、お土産情報なども記載されており、観光案内書・ガイドブックとして大和地方の魅力を伝える書にもなっている。

例えば、第Ⅱ部「本居宣長の歩いた道」では、宣長が『菅笠日記』で歩いた初瀬街道を訪ね、長谷寺の観音と初瀬石と共に桜井市黒崎の「みょうと饅頭」を紹介する。この饅頭は長谷寺を参詣する旅人の間で有名なものであり、『菅笠日記』のみならず多くの日記や小説に登場するのだが、明治から昭和初期の鉄道の開通に伴い消滅したという。しかし、近年様々な人々の尽力により復活し、再び私達が味わうことのできる物になった。この他にも、「藤原の里」「香久山と耳成山の狐の民話」（第Ⅰ部）、「大和神社と大国魂神」「業平の姿見伝説」（第Ⅱ部）、「ノミノスクネとタイマノケハヤ―相撲の起源と両者の墓伝承―」「静御前のふるさと」（第Ⅲ部）など、多彩なテーマで本書は執筆されている。

大和は奈良時代の古代ロマン溢れる地である。本書では「伝説」をベースにすることで、その魅力ある大和の古代のみならず中世から近現代までも概観することができ、他の観光案内書などとは異なった視点から大和を見ることができる。大和の歴史と文化に思いを馳せながら旅する時の友として、手元に置きたい一書である。

（三弥井書店、二四六頁、二〇一六年二月、本体価格二三〇〇円）

（はやし・ひかり　本学大学院博士前期課程）